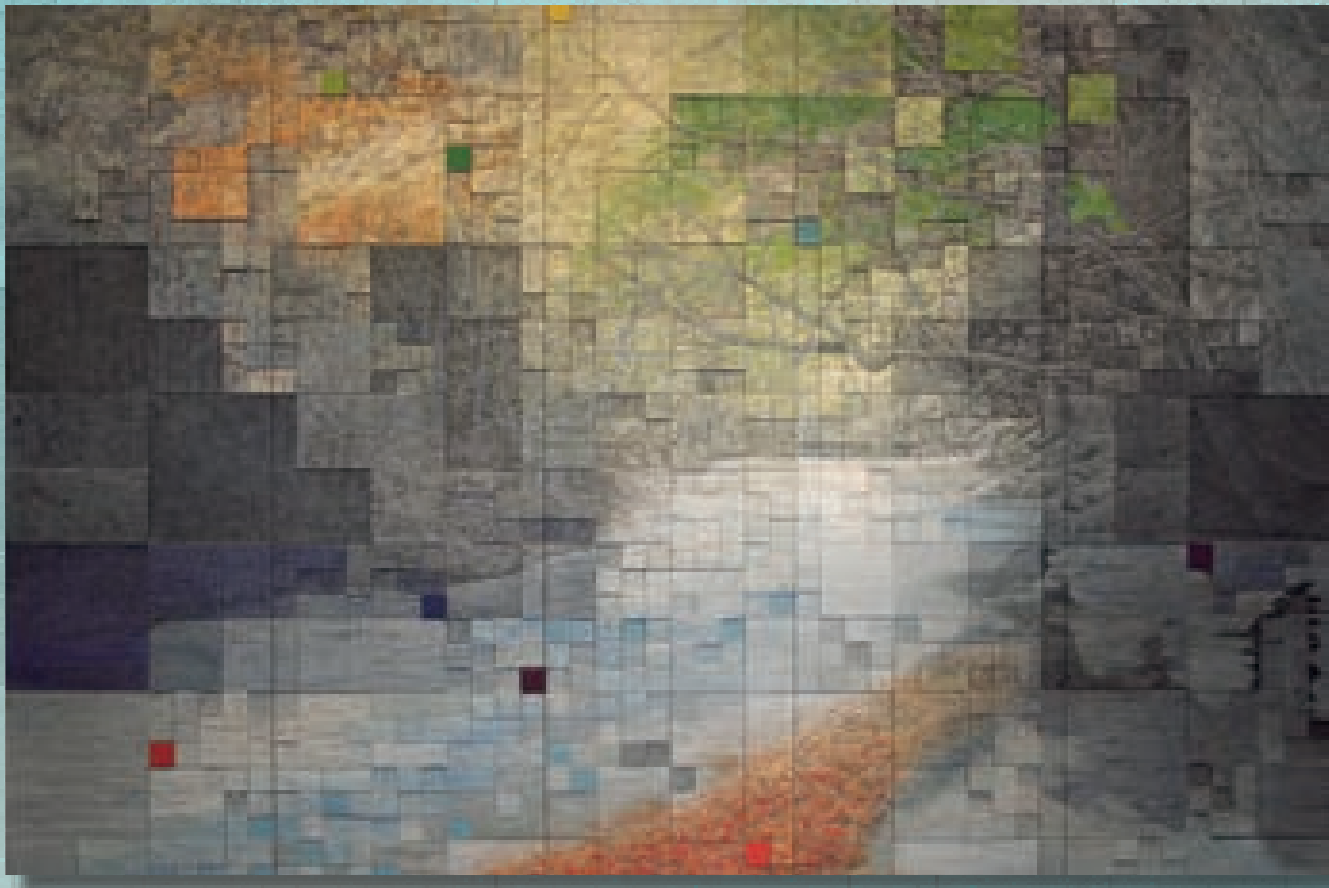


第84期 株主報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで



西部電機株式会社

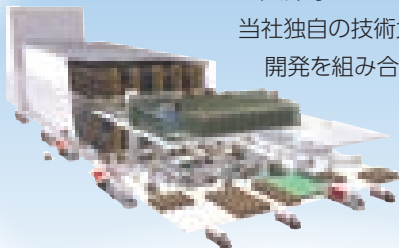
証券コード 6144

西部電機は技術と品質で、 そして独自の創造力で広く世界に貢献いたします。

当社は「超精密とメカトロメーション®の追求」を理念に、
物流マテハンシステム、産業機械、放電加工機、工作機等、多彩な技術で
明日を拓くメカトロニクスメーカーです。

搬送機械事業

コンパクトで経済的なシステムを構築できる
当社独自の技術力と、ソフトウェア
開発を組み合わせた「総合物流
ソリューション」を
提案しています。



産業機械事業

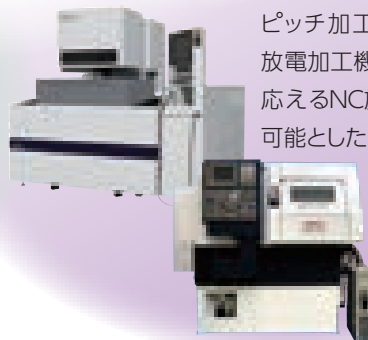


水・電気・ガス・石油などエネル
ギーを暮らしに導くため大切
な役割を担うバルブアクチュ
エータとゲート駆動装置を提
供しています。

Seibu

精密機械事業

ピッチ加工精度で定評のワイヤ
放電加工機、小物精密部品加工に
応えるNC旋盤、自由形状加工を
可能とした切削加工機などを開発
しています。



「チャレンジ200」の3年目、「危機感」と「決断」と「スピード」で市場競争を勝ち抜いてまいります。



平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループの第84期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の決算が終了いたしましたので、その概況をご報告申し上げます。

平成29年6月

取締役社長 高橋敬一郎

Q 当期の業績について教えてください。

A 過去最高の売上高を確保し2期連続で増収・増益となりましたが、特損の計上により、最終利益は減益となりました。

当連結会計年度におけるわが国経済は、海外経済の減速や英国のEU離脱問題など、先行き不安が広がる局面もありましたが、米国大統領選挙後の円安による輸出企業の業績改善に加え、雇用・所得環境の改善もあり、緩やかな景気回復基調が続きました。しかしながら、依然として中国をはじめとする新興国経済の減速や円高の進行など懸念材料を抱えており、先行き不透明な状況が続いております。

この様な情勢の中で、2015年度から2017年度までの中期経営計画「チャレンジ200」を策定し、市場競争を勝ち抜くべく、全社を挙げて努力してまいりました。

その結果、当社グループの連結業績は、前期に受注したような大口物件がなく、円高により輸出が減少したこともあり、受注高は185億9千4百万円(前期比 20.6%減)となりました。売上高は大口物件の納入により、240億1千9百万円(前期比 29.8%増)と過去最高となり、「チャレンジ200」を1年前倒しで達成することができました。損益においては、コストダウンや経費削減等、当社グループを挙げて注力いたしました結果、経常利益は15億9千5百万円(前期比 19.1%増)となりましたが、製品保証引当金繰入額を特別損失に計上したこともあり、親会社株主に帰属する当期純利益は4億8百万円(前期比 50.1%減)となりました。

Q 次期の見通しについてはいかがですか。

A 「危機感」と「決断」と「スピード」で、市場競争を勝ち抜いてまいります。

次期のわが国経済は、中国等の新興国の経済動向による海外経済への影響や米国新政権の政策などの懸念材料もあり、先行き不安定な状況で推移するものと思われます。

当社グループといたしましては、どのような環境下にありましても、「危機感」と「決断」と「スピード」を常に念頭におき、変化に対応することによって、受注・売上を拡大し、市場競争を勝ち抜く所存であります。

また、次期以降常時200億円以上の売上高を確保するための体制づくりの年度と捉え、尽力してまいります。

Q 株主還元について教えてください。

A 当期の期末配当金は、1株当たり7円とさせていただきます。

当社は安定的な配当を継続して行うことを基本方針としており、業績の向上によって1株当たりの利益水準を高めるとともに、中長期の展望、財務状況等を考慮し、これに対応した配当を決定すべきと考えております。

当期の期末配当金は、当初の予定どおり1株当たり7円とさせていただきます。

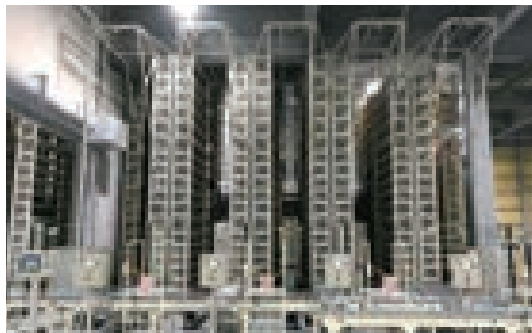
株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

搬送機械事業 ヤマエ久野株式会社殿へコンビニ向け飲料仕分けシステム納入

搬送機械事業では、地元流通大手のヤマエ久野殿常温一括北九州センターへコンビニ向け飲料仕分けシステムを納入し、3月より稼働を開始しました。北九州市東部にある本センターは、飲料を主に毎日430店舗への配送を担っています。

この仕分けシステムは、約8,300ケースの保管量を持つRIOシステム10台と、パレット上の商品を自動デパレタイズするフェースピッカーを中心とした構成で、1日当たり約10,000ケースの仕分けを行っています。仕分け自動化率は9割以上、時間当たり2,300ケースの能力を有し、従来10名の人員で行っていたピッキング作業を5名で行うことが可能となり、作業効率が大幅に改善されました。

今後も、お客様のご要望とご期待に応えるとともに、次の受注へ向け事業部一体で取組んでまいります。



搬送機械事業 かが車用電動アシスト台車が「日本MH大賞」を受賞

搬送機械事業では、新商品「かが車用電動アシスト台車」が、昨年8月に開催された第25回「日本MH大賞審査会」（日本マテリアル・ハンドリング(MH)協会主催）で大賞を受賞しました。

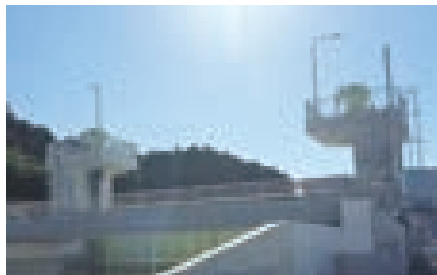
かが車とは、物流センターのピッキング作業等に使用される手押し台車のことで、この電動アシスト台車はかが車を発進・停止させる動作を作業者の押し力に応じて0~60%アシストするため、作業者の負担が大幅に軽減されます。電気自動車にも使用されているリチウムイオン電池を採用しており、短時間(約6分)での充電が可能です。また、既存のかが車に簡単に取り付けできる点でもメリットがあります。

昨年9月に開催された「国際物流総合展2016」では、体験コーナを設けて出展し、大きな反響がありました。

3月からはモニター機貸出を開始しており、今後お客様からの生の声を基に、更にブラッシュアップを行ってまいります。



産業機械事業 大型チェーン式ゲート駆動装置の受注獲得



2011年3月に発生した東日本大震災以降、津波対策に伴う堤防の嵩上げにより、水門も大型化されることになりました。これに対応するゲート駆動装置の需要が見込まれることから、当社は2013年4月に仙台事務所を再開設し、東北地域(特に岩手県・宮城県・福島県)を中心に、市場ニーズの情報収集や提案営業に注力いたしました。また、大型チェーン式ゲート駆動装置の開発および大型試験設備の増設など、製販一体となって準備を整えてきました。その結果、東北、関東地域で大型ゲート駆動装置(160トン、90トン、70トン)を受注することができました。

また、防波堤の機能を持ち横方向にスライドする水門(陸閘)の需要も見込まれ、引き続き、製販一体となって市場の動向を捉えた商品で受注に繋げてまいります。

産業機械事業 防衛省護衛艦向け電動バルブアクチュエータの開発

産業機械事業では、防衛省護衛艦向けバルブの国内トップメカとタイアップし、平成28年建造の護衛艦向けに電動バルブアクチュエータ[LTMD]、[LTRM]を納入しました。納入に際しては、防衛省規格:NDS (National Defense Standards) に適合することが条件でした。通常のJIS性能評価試験に加え、有事を想定した衝撃試験(衝撃加速度:約1,000G物理衝突試験)にも耐えられるよう改良を行い、防衛省より採用認可をいただきました。

昨今の世界情勢を踏まえ、防衛省は国家安全保障のため10年先までの護衛艦建造を見込んでおり、この市場への継続参入が期待されます。



LTMD衝撃試験風景

精密機械事業 グローバル市場への展開



精密機械事業では、昨年9月にアメリカのシカゴで開催されたIMTS2016(世界三大工作機械見本市の一つ)にワイヤ放電加工機[M35B]、[M50B]を初めて出展しました。アメリカ市場での拡販の足掛かりとなる展示会で、今後の期待されます。また、ドイツ、中国、ベトナムの展示会にも出展し、グローバル市場への展開を図っています。

国内においては、昨年11月に東京ビッグサイトで開催されたJIMTOF2016(日本国際工作機械見本市)に、新開発機種ワイヤ放電加工機[MEX15]、高精度小形NC旋盤[SNC-20PT]を出展しました。[SNC-20PT]は従来機の2台分を連結したもので、1.5台分の省スペース化を実現し、かつサブミクロン仕上げの精度を確保したツーヘッドタイプの複合NC旋盤です。

今後も更なる市場拡大のため、国内はもとより海外市場にも販路の拡大を図ってまいります。

精密機械事業 超精密ワイヤ放電加工機の開発

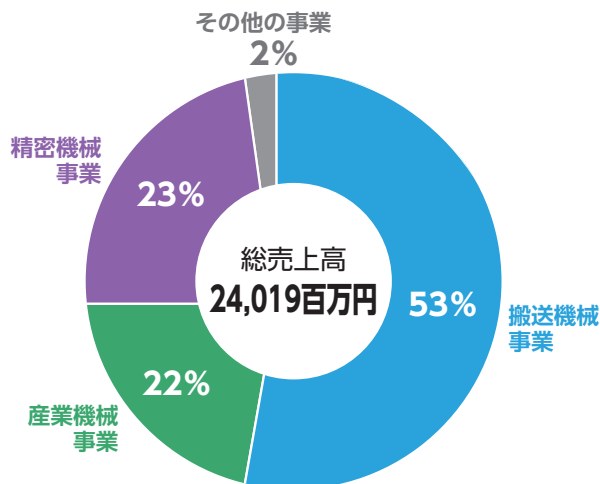
精密機械事業では、超精密分野の市場要求に応えるため、油仕様超精密ワイヤ放電加工機[MEX15]を開発しました。[MEX15]は温度変化に強い門型構造や特殊な駆動機構(特許出願中)を採用することにより、テーブルの真直精度0.07 μ m、実加工による微細加工形状精度 \pm 0.5 μ mを実現しました。更に、微細加工に必須な ϕ 0.03mmの極細線ワイヤに対応した自動ワイヤ供給装置を搭載しており、超精密微細加工分野での拡販が期待できます。また、IoTにも対応する機能をもつ21.5インチ大画面マルチタッチのユーザーインターフェースを備えた[Smart NC]を開発し、処理速度と操作性が大幅に向上しました。

超精密へのこだわりから生まれた[MEX15]で、超精密ワイヤ放電加工機世界一を目指してまいります。

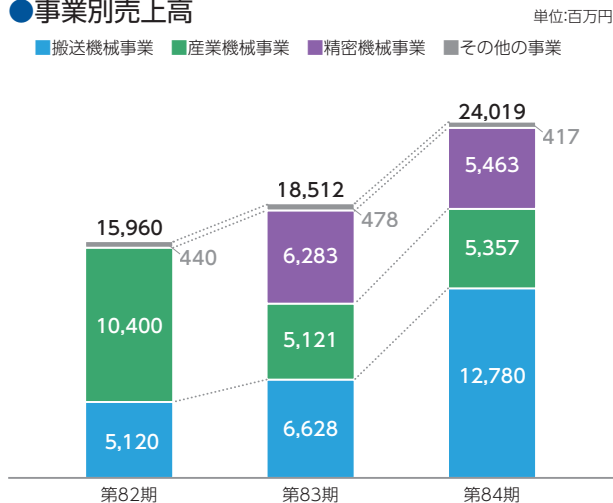


主要な事業別営業の概況 *Operating Overview*

● 事業別売上高構成比



● 事業別売上高



(注) 当社は、第83期から産業機械事業部精密機械部門を独立させ、精密機械事業部とする組織変更を行っております。

搬送機械事業

売上高 **12,780**百万円

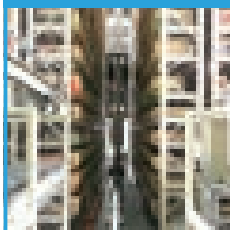
(前期比 92.8%増)

搬送機械事業では、既存顧客からの大型システムのリピート受注、自動倉庫や製造業の生産・物流分野などに、ピッキングシステムや新商品を使ったソリューションを提案するとともにサービス・メンテナンスにも注力し、拡販を図ってまいりました。

受注高は前期に成約したような大口物件がなかったこともあり、73億3千万円(前期比 34.4%減)、売上高は前期受注の大口物件が納期をむかえたこともあり、127億8千万円(前期比 92.8%増)となりました。

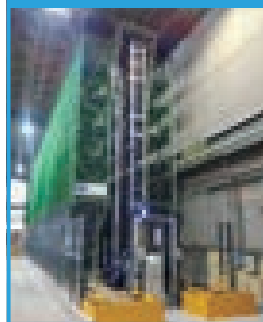
主要商品

ケース自動ピッキングシステム(高能力RQクレーン)



- 立体自動倉庫
- FAシステム
- ケース自動ピッキングシステム
- ピースピッキングシステム
- 搬送・ハンドリングシステム

立体自動倉庫(小型標準システム)



搬送・ハンドリングシステム(オリコン積付ロボ)



産業機械事業

売上高 **5,357**百万円

(前期比 4.6%増)

産業機械事業では、民間需要の掘り起こしやゲート分野を中心とした既存市場におけるシェアアップ、サービス・メンテナンスに注力してまいりました。

その結果、ゲート物件の引合いが増加し、受注高は55億7千4百万円(前期比 8.4%増)、売上高は53億5千7百万円(前期比 4.6%増)となりました。

精密機械事業

売上高 **5,463**百万円

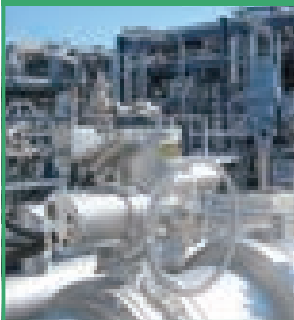
(前期比 13.0%減)

精密機械事業では、既存顧客の更新需要や海外市場の開拓に注力してまいりましたものの、円高による輸出の減少もあり、受注高は52億9千2百万円(前期比 19.7%減)、売上高は54億6千3百万円(前期比 13.0%減)となりました。

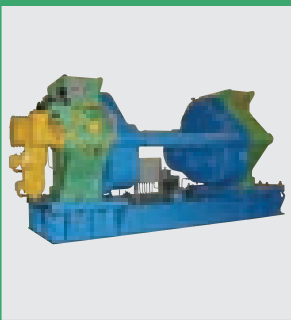
主要商品

- バルブアクチュエータ
- ゲート駆動装置

バルブアクチュエータ・プラント



ゲート駆動装置(大型60t)



主要商品

- 超精密・高精密ワイヤ放電加工機
- 超精密ワイヤ放電加工機(油仕様)
- 高精密小形NC旋盤
- 正面旋盤

超精密ワイヤ放電加工機(MEX15)



高精密2スピンドル櫛刃型NC旋盤(SNC-20PT)



連結財務諸表(要約) ・ Financial Statements

単位:百万円(金額は単位未満を切り捨てております。)

連結貸借対照表

科 目	第84期	第83期	科 目	第84期	第83期
	平成29年3月31日	平成28年3月31日		平成29年3月31日	平成28年3月31日
資産の部			負債の部		
流動資産	17,337	18,275	流動負債	8,052	10,022
現金及び預金	7,549	7,893	支払手形及び買掛金	1,762	2,360
受取手形及び売掛金	7,466	6,263	電子記録債務	3,420	3,678
仕掛品	759	949	短期借入金	620	620
原材料及び貯蔵品	1,258	2,662	未払費用	1,130	1,076
繰延税金資産	241	238	未払法人税等	414	388
その他	65	269	役員賞与引当金	18	38
貸倒引当金	△2	△2	受注損失引当金	—	37
固定資産	13,942	13,121	その他	685	1,823
有形固定資産	9,590	9,735	固定負債	4,156	3,148
建物及び構築物	3,732	3,930	長期借入金	336	336
機械装置及び運搬具	661	629	長期未払金	101	5
土地	5,006	5,006	繰延税金負債	51	—
その他	182	168	再評価に係る繰延税金負債	1,477	1,477
建設仮勘定	6	—	役員退職慰労引当金	19	236
無形固定資産	10	13	製品保証引当金	1,019	—
投資その他の資産	4,341	3,372	退職給付に係る負債	1,053	1,014
投資有価証券	3,276	2,366	その他	98	77
長期貸付金	29	29	負債合計	12,208	13,171
退職給付に係る資産	508	359	純資産の部		
繰延税金資産	167	138	株主資本	14,065	13,885
投資不動産	11	19	資本金	2,658	2,658
その他	383	501	資本剰余金	2,616	2,616
貸倒引当金	△35	△43	利益剰余金	8,795	8,614
			自己株式	△4	△4
			その他の包括利益累計額	5,006	4,341
			- 他有価証券評価差額金	1,526	876
			- 地再評価差額金	3,363	3,362
			- 退職給付に係る調整累計額	116	101
			純資産合計	19,072	18,226
資産合計	31,280	31,397	負債純資産合計	31,280	31,397

■ 連結損益計算書

科 目	第84期	第83期
	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで	平成27年4月1日から平成28年3月31日まで
売上高	24,019	18,512
売上原価	18,804	13,758
売上総利益	5,215	4,753
販売費及び一般管理費	3,688	3,496
営業利益	1,527	1,257
営業外収益	84	98
営業外費用	16	17
経常利益	1,595	1,338
特別利益	10	10
特別損失	1,021	27
税金等調整前当期純利益	584	1,321
法人税、住民税及び事業税	428	514
法人税等調整額	△252	△10
当期純利益	408	817
親会社株主に帰属する当期純利益	408	817

■ 連結包括利益計算書

科 目	第84期	第83期
	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで	平成27年4月1日から平成28年3月31日まで
当期純利益	408	817
その他の包括利益	664	△441
包括利益	1,073	376

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	第84期	第83期
	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで	平成27年4月1日から平成28年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	592	2,310
投資活動によるキャッシュ・フロー	△681	△734
財務活動によるキャッシュ・フロー	△255	△225
現金及び現金同等物の増減額	△344	1,350
現金及び現金同等物の期首残高	7,753	6,403
現金及び現金同等物の期末残高	7,409	7,753

■ 連結株主資本等変動計算書

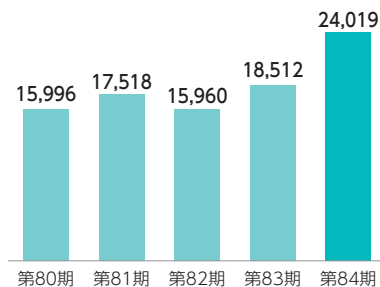
第84期 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで	株主資本					その他の包括利益 累計額	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	2,658	2,616	8,614	△4	13,885	4,341	18,226
当期変動額							
剰余金の配当			△227		△227		△227
親会社株主に帰属する当期純利益			408		408		408
自己株式の取得				△0	△0		△0
土地再評価差額金の取崩			△0		△0		△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						665	665
当期変動額合計	—	—	180	△0	180	665	845
当期末残高	2,658	2,616	8,795	△4	14,065	5,006	19,072

連結業績ハイライト ・ *Financial Highlights*

科 目	第80期 平成24年度	第81期 平成25年度	第82期 平成26年度	第83期 平成27年度	第84期 平成28年度(当連結会計年度)
売上高 (百万円)	15,996	17,518	15,960	18,512	24,019
経常利益 (百万円)	1,157	1,629	1,129	1,338	1,595
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	657	924	622	817	408
1株当たり当期純利益	43円41銭	61円04銭	41円08銭	53円99銭	26円96銭
総資産 (百万円)	27,087	27,476	27,582	31,397	31,280
純資産 (百万円)	15,855	16,705	18,046	18,226	19,072
1株当たり純資産額	1,046円54銭	1,102円63銭	1,191円19銭	1,203円05銭	1,258円89銭
自己資本比率 (%)	58.5	60.8	65.4	58.1	61.0

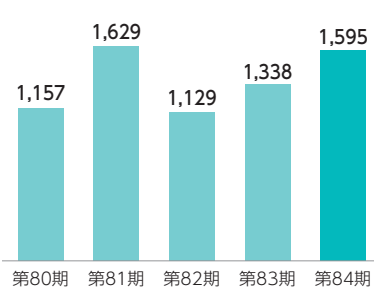
売上高

単位：百万円



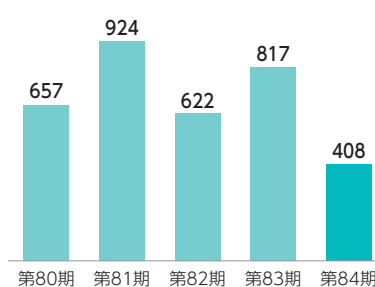
経常利益

単位：百万円



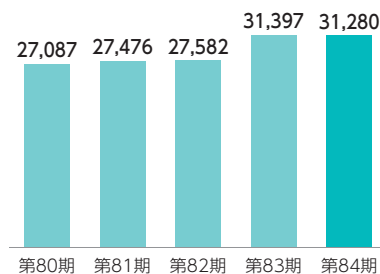
親会社株主に帰属する当期純利益

単位：百万円



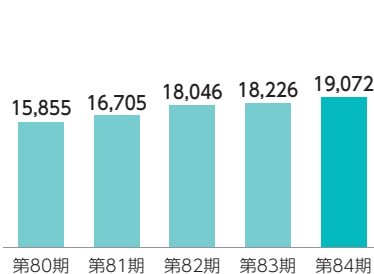
総資産

単位：百万円



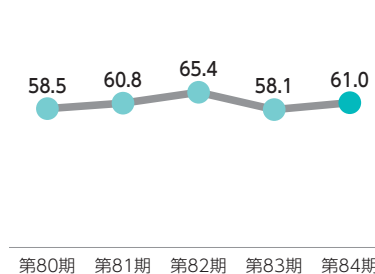
純資産

単位：百万円



自己資本比率

単位：%



平成29年3月31日現在

会社の概況

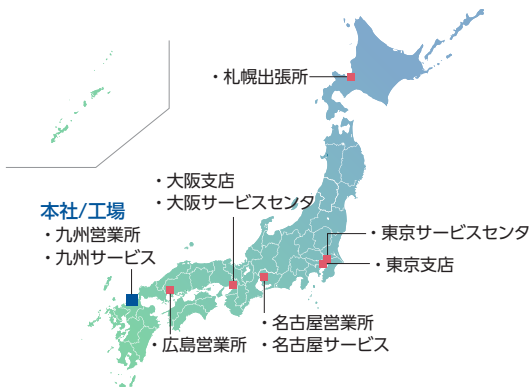
商号	西部電機株式会社
英訳名	Seibu Electric & Machinery Co., Ltd.
本店所在地	福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
設立	昭和14年2月1日
資本金	26億5,840万円
従業員数	418名(連結473名)

役員

平成29年6月29日現在

取締役社長(代表取締役)	宮地 敬四郎
専務取締役	藤岡 敬正
常務取締役	税所 幸一
取締役	中里 晋也
取締役	溝田 安彦
取締役	塩川 秀樹
取締役	佐藤 徳生
社外取締役	井上 信之
常勤監査役	大串 秀文
社外監査役	小西 正純
社外監査役	大塚 丈徳

事業所



株式の状況

発行可能株式総数	32,980,000株
発行済株式の総数	15,160,000株
株主数	1,268名

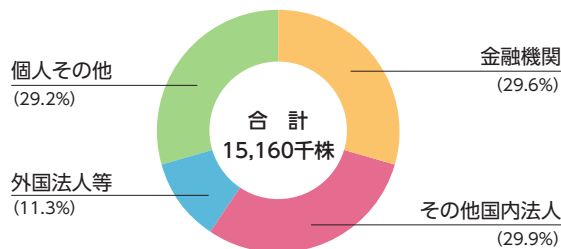
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社安川電機	2,630	17.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,534	10.1
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	1,132	7.4
株式会社豊田自動織機	1,106	7.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	650	4.2
株式会社福岡銀行	633	4.1
みずほ信託銀行株式会社	626	4.1
株式会社西日本シティ銀行	589	3.8
MSIP CLIENT SECURITIES	541	3.5
西部電機従業員持株会	405	2.6

(注)1. 持株比率は自己株式(9,998株)を控除して計算しております。

2. シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社から平成28年10月4日付で提出され、公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、平成28年9月27日現在同社が3,149,900株(保有割合20.78%)を保有している旨が記載されております。しかし、当社として当事業年度末における同社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含めておりません。

所有者別株式分布状況

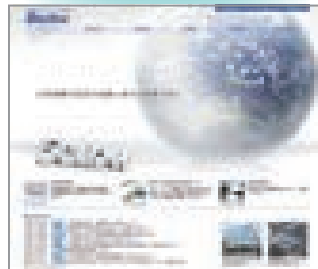


■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
剰余金の配当	毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
中間配当	取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
公告方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.seibudenki.co.jp/)に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
基準日	毎年3月31日 その他必要があるときは、取締役会の決議によってあらかじめ公告いたします。

ホームページのご案内

当社Webサイトでは、事業内容やIR情報などがご覧いただけます。



<http://www.seibudenki.co.jp/>

または、

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合【特別口座の株主様】
お問合せ先	お取引の証券会社等になります。 (ただし、支払明細発行については、右記【特別口座の株主様】のお問合せ先までご連絡ください。)	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
お取扱店		みずほ証券株式会社 本店、全国各支店および営業所、プラネットブース(株式会社みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金のお支払いについては、みずほ信託銀行株式会社および株式会社みずほ銀行の本店および全国各支店にてお取扱いいたします。(みずほ証券株式会社では取次のみとなります。)	

【特別口座の株主様へご案内】

1.株式の売買について

「特別口座」では、単元株式の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。株券の電子化後に振替手続きを行っていない株主様は、上記【特別口座の株主様】のお問合せ先までご連絡ください。

2.少額投資非課税口座(NISA口座)における配当等のお受取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座で所有される場合、配当等を受取るには、証券会社等を通じて受取る「株式数比例配分方式」の手続きが必要となります。「特別口座」の株主様は「株式数比例配分方式」をご利用いただくことができませんので、別途手続きが必要となります。詳細は上記【特別口座の株主様】のお問合せ先までご連絡ください。

表紙の絵は、本社玄関フロアに展示されている陶版画で、奥入瀬渓流の四季をモチーフに「自然随順」を表現しております。当社が「我々のロマン」として掲げるスローガン「我々は技術の本質を謙虚に探索し自然随順に即した応用で広く世界に貢献しよう」は、好不況にかかわらず、ロマンを胸に、機械文明と自然が共存し得るとの信念で謙虚さと誇りをもって商品をつくり、広く世界に貢献することを宣誓しています。

西部電機株式会社

●お問い合わせ先

〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号 TEL:092-941-1500(代表)



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。